

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

地域振興におけるインタラクション動画を用いた 旅行ガイドブックの可視化研究

-ベッドタウンとしての宗像市周辺を事例にして-

Visualization research of travel guidebooks using interaction video in regional development

-Taking the area around Munakata City as a bed town as an example-

博士前期課程

芸術研究科 造形表現専攻 デザイン領域

陳 嵐清

主査 青木幹太
副査 井上貢一
佐藤慈

研究背景

ショートビデオの台頭に伴い、中国では多くのショートビデオベースのプラットフォームが登場している。ショートビデオのコンテンツが普及したことで、膨大な数のショートビデオが配信され、ユーザーは質の高いコンテンツを期待する。

本研究ではショートビデオの利点を活かし、多数のPGCを備えた高品質のプラットフォームを活用し、インタラクティブビデオを採用した。

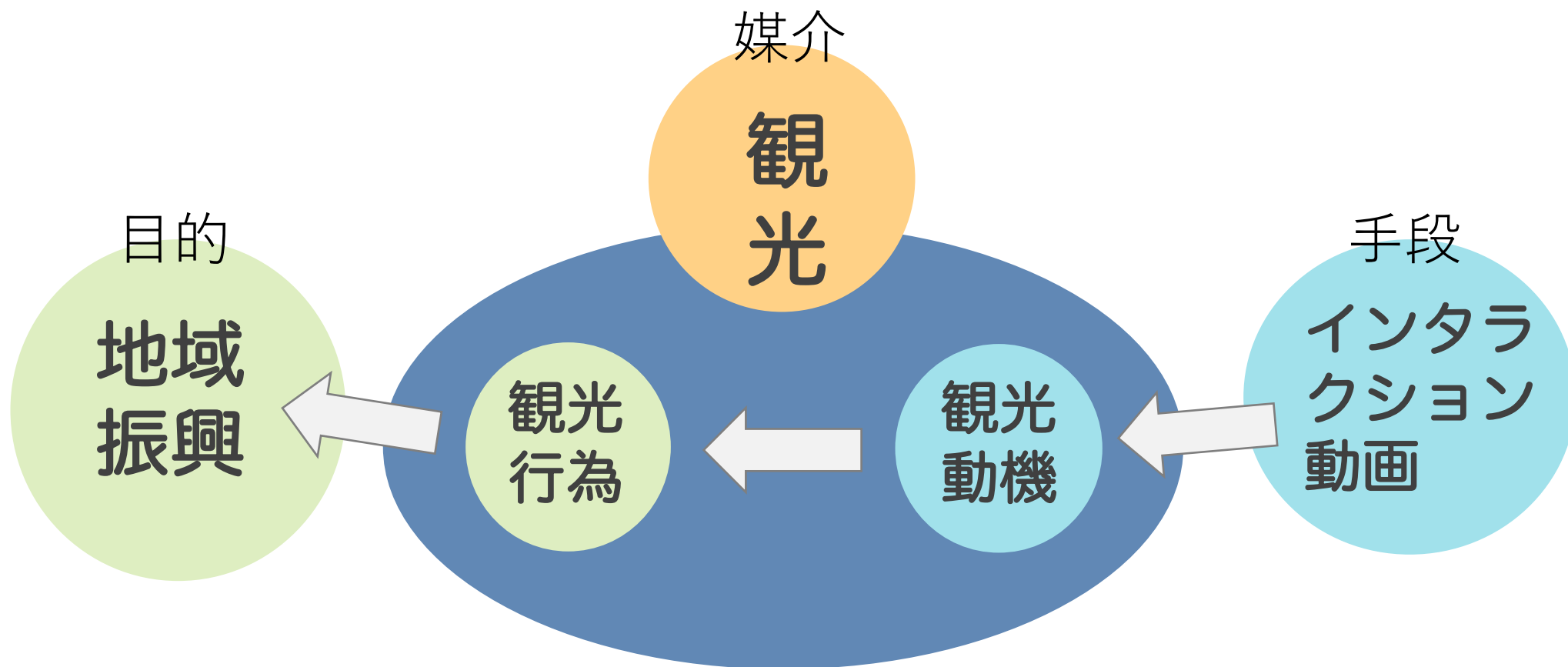
研究目的

インタラククションシステムを用いた情報発信による地域振興の役割・可能性の検証、方法の抽出、今後の展望について明らかにすることである。

研究方法

1. SWOT 分析を用いて、宗像市の観光産業の発展状況や地域振興に活用する上での問題点及びその改善策について確認した。
2. 先行研究から観光動機の誘発やインタラククション動画に関する研究知見を踏まえ、観光動機を誘発するための手段や方法、インタラククション動画の発信形式や構成要素等を明らかにする

研究概要



研究概要 実践研究1



宗像大社



鎮国寺



大島・風車展望所



高宮祭場



割符守

研究概要 実践研究2



国民宿舎



醤油工場



馬車乗り



織幡神社



奴山古墳

研究概要 実践研究3



北斗水汲み公園

成果・まとめ

本研究で想定したBILIBILIにおけるインタラクションシステムは、ユーザーの選択行為を内包した情報の総合であり、目的は的確にユーザーの好みや志向を把握することである。

インタラクションシステムでは、ユーザーが無意識の選択行為による意思決定を行い、ユーザーの行為によってデータ収集が可能になる。即ち収集されたデータの分析結果から、観光スポットの改善等を行い、サービスレベルの向上につなげることができる。

指導教員コメント

本研究は、宗像市を事例として海外や国内の観光需要層に対し、宗像市の魅力を発信し、観光客として誘致を促す旅行ガイドブックをインタラクティブ動画を用いて可視化を試みたものである。研究のポイントは、留学生の視点から発掘した宗像市の観光資源を、BILIBILIというプラットフォームを利用して、研究者の本国である中国で実際にインタラクティブ動画の実験を行い、その結果を踏まえて宗像市の観光ルーチンを動画の流れ（プロットツリー）で可視化した点にある。コロナ禍にあって昨年の3月から現在まで日本に戻ることができず、研究の進行や審査に至るまでオンラインで実施したが、研究者の熱心な取り組みで研究目的を達成することができた。

青木幹太